全学共通教育の令和４年度実施に向けた研修会（FD）報告

大学教育基盤センター調査研究部編

昨年度に引き続き今年度も、全学共通科目を担当する教員を対象に、全学共通教育について理解を深めていただくことを目的として、全学共通教育の令和４年度実施に向けた研修会を実施した。第１部、第２部ともに講義室での対面方式と遠隔配信方式を同時に行うハイブリッド方式で開催した。第１部では、第４期中期目標期間に向けた全学共通教育改革の概要と、当該期間において重要な役割を占めるDRIの能力の可視化について報告があり、意見交換が行われた。続く第２部では、次年度より新たに開講される「（新）学問への扉」での科目領域間の助け合いの仕組みについて報告があり、意見交換が行われた。第１部の参加者は111名、第２部の参加者は87名だった。

日時：令和３年12月７日（火）13:00 － 16:00
場所：教育学部321講義室及び遠隔開催（Zoom）
対象：全教員

第１部
1. 開会の挨拶
2. 第４期中期目標期間に向けた全学共通教育改革について
3. DRI教育の可視化に向けて
4. 全学共通教育にかかる事務手続きについて

第２部
1. 全学共通科目の新しい試み、科目領域の助け合いの仕組みについて
2. 質疑応答・意見交換

本報告は、研修会の企画･実施にあたった大学教育基盤センター調査研究部が編集を行った。第１部「3. DRI能力の可視化に向けて」では、高橋尚志大学教育基盤センター長以外にＩ科目の担当者から、第２部「1. 全学共通科目の新しい試み、科目領域の助け合いの仕組みについて」では、野村美加調査研究部長以外に科目領域選出コーディネーターから報告があったが、紙幅の都合上とりまとめて掲載している。なお、第１部「1. 開会の挨拶」「4. 全学共通教育にかかる事務手続きについて」は、報告を割愛した。

第1部

1. 第4期中期目標期間に向けた全学共通教育改革について

寺尾　徹（大学教育基盤センター共通教育部長）

大学教育基盤センターでは、第4期中期目標期間に向けた全学共通教育カリキュラムを検討するため、2019年8月よりWGにて検討を行ってきた。そこでみえてきた、現在の全学共通教育科目の課題は、「入門科目が見えない」「選択力なき選択」「主題C基礎の課題」「科目群の硬直化」「教員の減少」「主題群の形骸化」の6点にまとめられる。これらの課題を解決するため、第4期中期目標期間に向けた全学共通教育カリキュラムのテーマとしたのが「自己選択力を身に着けた自律的学修者育成」である。具体的には、従来よりも、入門科目、基礎科目、応用科目の区分を意識して科目を配置し、入門科目（1年生の第1Q、第2Q中心）の期間中に、学生の自己選択力を育成し、基礎科目（1・2年生中心）は自ら選択できるようにする。加えて、基礎科目の学びが、応用教育（4（6）年一貫）や専門教育、大学院における学びに接続するように位置づけることで、「自律的学修者育成」を目指す。新しい科目区分としては、「（新）学問への扉」、「ライフデザイン」、「主題科目」、「特別・複合領域科目」（「学問基礎科目」内に配置）、が挙げられる。また、科目領域コーディネート制度によって、科目領域間の助け合いの仕組みを導入するとともに、学際的科目の検討に資する。加えて、創造的科目支援育成事業によって、「創造的な科目」に対して2年間で15万円の支援を行うことにした。

2. DRI能力の可視化に向けて

高橋尚志（大学教育基盤センター長）

第4期中期目標中期計画（学士課程）では、DRI教育の拡充とともに学修成果の可視化に取り組むと記載されている。具体的には、DRI教育のアセスメントテスト等を実施することにより、学修成果を可視化することが予定されているが、そもそも本学の学修成果の可視化はどのようになっていて、これからどのようになると計画されているのか、本報告では、確認することからはじめたい。まず、現状の学修成果の可視化については、学修成果確認システムがすでに存在している。そこから、担当学生の成績を、DPを軸としたレーダーチャートの形で把握することができる。一方、教務システムの改修も進められており、それが完成した暁には、DRI能力の達成度を軸としたレーダーチャートの作成も可能となる。しかし、そこで問題となるのが、DRI能力の到達度をどのようにして測定するのかという点である。D科目に関しては、これまで全学共通科目の主題Bを中心に展開されてきた経緯もあり、それらの科目を用いた可視化の方針を探ることが10月開催の学長とのD

検定の打ち合わせ後確認された。またＲ科目とＩ科目に関しては、８月に開催された執行部ミーティングにおいて、第４期中期目標計画との整合性を持たせアセスメントテストの実施の方向性が決まった。それに基づき、学長をリーダーとするWGにおいて、Ｒ科目に関しては、創造工学部必修科目「リスクマネジメント概論」を土台として、リスクマネジメント初級編検定用コンテンツの作成が検討されている。Ｉ科目に関しては、情報リテラシーＡ・Ｂや知プラｅ科目「高度情報化社会の歩き方」「データ利活用とオープンイノベーションで創る未来のまちづくり」等の要素を含めたものとして、Informatics検定（Ｉ検定）の検討が進んでいる。

第２部

3. 全学共通科目の新しい試み、科目領域の助け合いの仕組みについて

野村美加（大学教育基盤センター調査研究部長）

第３期中期目標期間における全学共通教育を検証した結果、科目領域の負担を調整・軽減する必要性、新しい学際型科目・入門科目の導入の必要性が指摘された。それらのニーズに対応するため、科目領域グループを設置して助け合いの仕組みを構築するとともに、「（新）学問への扉」「特別・複合領域科目」（「学問基礎科目」内に配置）を新設した。具体的には、科目領域グループミーティングにおいて、共通教育コーディネーターが中心となって、科目領域間の負担の調整・軽減を行いながら、上述の新しい学際型科目の授業担当者を選出した。また、ポイント制を導入して、蓄積されれば科目領域に配分される授業負担を軽減できるしくみを構築した。

合計２回の科目領域グループミーティングの結果、各グループは次のような結論を得た。グループＡ（哲学･倫理学系、芸術系、文学系、言語学系、英語系、初修外国語系、日本語系、歴史学系、地理学系）：余裕のある科目領域は少ない。次年度に関しては芸術系から１科目新設されることになった。グループＢ（心理学系、社会学系、教育学系）：心理学系と教育学系教員による新規科目「教育の“これまで”と“これから”を考える」が開講される。グループＣ（法学系、政治学系、経済学系、経営学系）：グループ内での負担軽減を検討している。次年度開講科目に関しては最終案を調整中である。グループＤ（数学系、地球科学系、物理学系、化学系、生物学系、統計学系、情報科学系）：生物学系、化学系、情報科学系教員による新規科目「自然科学へのいざない（仮題）」が開講される。グループＥ（医学系、看護学系、健康・スポーツ系）：看護学系が主題Ｂで開講している「国境を超える看護学～ユニバーサルヘルスカバレッジ」を基盤に「（新）学問への扉」に科目を開講する予定である。